

令和7年度指定管理者評価シート

1. 管理運営の状況等

(1)施設名	さいたま市老人福祉センター仲本荘					
(2)施設概要	①所在地 さいたま市浦和区東仲町28-15 ②施設の設置目的 高齢者に対して各種の相談に応ずるとともに、健康増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与する。 ③施設の概要 開設年月：平成23年5月 構造：鉄筋コンクリート造 2階建（仲本児童センター併設） 主な施設：コミュニティホール、カルチャールーム、ミーティングルーム					
(3)指定管理者	社会福祉法人さいたま市社会福祉事業団					
(4)指定期間、指定管理料	①指定期間 令和6年4月1日～令和11年3月31日 ②指定管理料（直近3か年） 令和5年度 21,178千円 令和6年度 19,484千円 令和7年度 20,648千円					
(5)施設の管理運営の内容	①運営業務の状況（利用状況含む） ◇利用状況 ・利用者数7,509人（前年度7,182人） ◇業務実施状況 ・主な事業として、体力維持や認知症予防、趣味・教養の場を提供し、健康で生きがいのある生活を送ることができるよう支援した。 ・利用者の要望を取り入れるため、年に数回アンケート等でニーズを把握し、要望に沿った事業を検討・実施した。 ・高齢者の生活を支援するため、各種相談の対応、クラブ活動の援助を図り、地域の高齢者の活動拠点として安心で、親しみのある施設づくりに努めた。さらに、地域との連携を図るため、地域懇談会を実施し、地区社協との合同事業等も開催した。 ②維持管理業務の状況 ・専門業者による消防法等の規定による建物・備品の点検のほか、職員による施設・設備の定期的な点検を行い記録した。指摘事項については迅速な対応を図った。 ・安全確保と効率的な施設管理に努め、防災備品の在庫にも留意し、緊急時の備えを再整備した。 ③その他の業務 ・シニアサポートセンターとの協働による体力測定・健康相談、生活サポート相談、理学療法士による運動機能低下予防の助言・指導を実施した。 ・健康に関する講座、手工芸、脳トレに関する講座、教養に関する講座のほか、併設する児童センターとの交流事業を4回実施し、地域の世代間交流の場としての役割を果たした。					
(6)収支状況	収入（費目）	収入（金額）	前年度	支出（費目）	支出（金額）	前年度
	老人福祉事業収入	10千円	（7千円）	人件費	11,237千円	（6,200千円）
	指定管理料	20,648千円	（19,484千円）	事務費	377千円	（291千円）
	その他	83千円	（2千円）	施設管理費	2,326千円	（2,722千円）
				事業費	161千円	（212千円）
				繰入金支出	2,064千円	（7,994千円）
	【自主事業】					
	収入	-	-	支出	-	-
(7)利用者アンケート等による市民からの意見・要望等への対応	法人全体としては、さいたま市社会福祉事業団「みなさまの声」設置要項による投書箱の設置、サービス向上担当委員会による「福祉サービス利用者アンケート」の実施等によりご利用者からのご意見・ご要望を受け付ける機会を設けた。 施設としては、利用者懇談会を実施し、ご提案内容や利用者アンケートの内容についての回答を行った。 また、施設としては、日々の窓口業務などを通じた利用者からの意見・要望の受付を継続して実施した。意見等への対応については、施設内に掲示し、わかりやすく周知した。また、「着替える場所がほしい」との声に対しては、多目的トイレの一角に「お着替えコーナー」を設置し、誰でも利用できるように対応した。					
(8)その他						

2. 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
介護予防と健康づくりを促進します。	・シニアサポートセンターと協働し健康相談や理学療法士による指導及び健康以外の生活サポート相談も行い、利用者各々の気にかかることの相談に応じた。 ・地域運動支援員による健康体操、外部講師によるヨガ講座の他、身体に関する事業(「健康体操」「リズム体操」「卓球」等)の実施により、健康づくりの支援を行った。
生きがいつくりを支援します。	・日々の生活の中で利用者の方々の笑顔につながるような、おりがみ・工作、卓球、映写会等、趣味的活動の支援を行った。 ・令和2年度から始めた浦和東部地区社会福祉協議会と共催で「地域の独居高齢者に箸袋や箸置きを送る活動」では、今年度も利用者の方々に折っていただき、利用するだけの施設から、施設の活動をサポートする側としてのやりがいに繋げる支援を行った。 ・団体利用への支援として活動場所や情報の提供をし、身近な地域の活動拠点となるよう今後も努めていく。 ・開始して3年目となった「eスポーツ」では、参加される利用者の定着も見られ、挑戦と達成感を味わえる機会となっている。新規参加の利用者へ積極的に操作のコツを伝える姿もあり、交流の場となった。
支え合い活力あるまちづくりを推進します。	・隣接の保育園児との「交流おりがみ教室」や併設の児童センターとの合同事業「交流eスポーツ」「交流ディスコン」等を通して、世代間交流を行った。 ・交通安全アドバイスや、防犯ポスターの掲示など安全に対する啓発を実施した。また、高校生による「防犯ワークショップ」を実施し、暮らしの中で起こりうる危機・リスクの回避を利用者と一緒に考える機会を提供した。 ・防災訓練を実施し、職員の防災意識の向上に努めた。 ・シニアサポートセンターをはじめ、自治会や関係機関等と地域支援会議や地域懇談会等を通して関係強化を図り、地域の中で利用者の皆様が安心して生活できるよう支援に努めた。 ・シニアサポートセンター、民生委員と共催でオレンジカフェを毎月開催し、認知症の人や家族を支える地域のつながりを深めた。
サービス向上計画を実施します。	【利用者の意見を反映する仕組み】 ・地域懇談会の開催や地域支援会議などに参加し、情報交換と情報共有を図り直接施設に届きにくい利用者ニーズを把握しサービス向上に努めた。 ・利用者アンケートや「みなさまの声」を活用し利用者ニーズを汲み取り、より利用しやすい施設づくりに努めた。 また、苦情解決体制により、利用者からの苦情・意見・要望を把握し、迅速・適切な対応に努めた。 ・利用者懇談会を実施し、利用者からの意見・要望を直接伺いニーズの把握に努め、次年度の事業計画に反映させた。

3. 評価

(1) 指定管理者による評価

①市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進については、事業を午前だけでなく、午後の開催も増やし、利用者の選択幅を広げ、気軽に参加ができるように努めた。利用者のロコミから新規利用も増え、利用者の年齢層が広がっている。また、参加人数が低迷していた「体力測定・健康相談」について、年に2回アンケートを実施することで、内容の周知とニーズの把握を図り、参加者が増えた。その他にも、浦和区高齢介護課を通じて地域運動支援員との共催事業やシニアサポートセンターとの共催事業等を実施し、関係機関と連携を図りながら情報交換や支援の向上に努めた。 ②経費の削減については、一体的な運営の利点を生かし、業務仕様の統一や契約手続きの一元化によりコスト削減に努めた。また、段階的なDX化を図りペーパーレスに取り組んだ。 ③適正な管理運営の確保については、法人として会計監査人による外部監査や法人事務局による内部監査を実施し、経営や財務の公正性、健全性、透明性、適法性を保つことに努めた。 ④職員の育成については、法人内の老人福祉センター実務担当者会議を開催し、情報交換及び安全で効率的な施設運営のため情報共有を行った。また、職員の専門性の向上を図るため、「老人福祉センターレベルアップ研修」を行い、施設内伝達研修を実施するとともに、施設内研修として「普通救命講習」を実施した。

(2) さいたま市の評価(評価担当課:福祉局長寿応援部高齢福祉課)

総合評価(B)※A~D 1 項目別の評価 ①「市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進」に対する評価 ・利用者ニーズを把握したうえで事業内容や開催頻度を見直し、施設の利用促進や利用者間の交流の促進に繋がった点、各種関係機関との連携を深めることにより、利用者の向上に努めた点を評価した。 ②「経費の削減」に対する評価 ・一体的な運営の利点を活かした業務効率化によりコスト削減に努めている点、DX化に取り組んで紙使用量を削減している点を評価した。 ③「適正な管理運営の確保」に対する評価 ・内部・外部監査の実施により経営の健全性を保持している点、複数回研修を実施して職員の育成を行い、老人福祉センターの運営レベル底上げに取り組んでいる点を評価した。 2 総合評価 事業計画に沿って、適正に施設運営が行われている。

(3) 来年度の管理運営に対する指導事項等

引き続き適切な管理運営に努めてください。
